

□仕事が決まらなないと保育園に入れない

2月、東京都足立区や杉並区などでは認可保育所に子どもを預けられない母親たちが行政不服審査法に基づく異議申し立てを行いました。

「仕事が決まらなさと保育園に入れない、保育園が決まらなさと仕事を探せない」この矛盾は、少子高齢化を社会的な課題としているにも関わらず真剣に議論されてきませんでした。

□本場に待機児童は減少しているの？

厚生労働省によれば、待機児童数は2万5556人で4年ぶりに減少しているというのですが、横浜市、川崎市を除いた都市部では増加しています。

さらに、第1希望の保育所に入所するための待機児童や、認可外保育園を利用している児童は除かれているため、潜在的な待機児童は公表されている統計よりも多いことが推測されます。最初からあきらめて入所希望手続きすらしていない多くの「潜在待機児童」もカウントされていません。

□横浜市では保育コンシェルジュを設置

待機児童が全国一多かった横浜市は、3年間でほぼ0にしました。定員の拡充のほか、専門の相談員「保育コンシェルジュ」の配置など、さまざまな対策がされています。

財源不足に加え、硬直した国の規制と自治体の工夫の足りなさも待機児童問題の大きな原因だといえます。

□子どもの育ちは待って
くれない

税と社会保障の一体改革に盛り込まれた子育て施策では、消費税を財源として事業所内保育も含めた多様な保育サービスを整備することになってはいますが、子どもの育ちは待ってはくれません。

生活の豊かさを示す人間開発指数(保健、教育、

生活水準)が世界第1位のノルウェーの制度には届かないまでも働きながら子どもを育てるための環境を少しでも改善していくことは社会経済にも大きな影響があります。できるところから始めるべきではないかと、私たちは考えます。



いんふおめーしょん

●空間放射線量の測定器を貸し出します。または、計ってみたい場所があります。たらご連絡ください。

場所 くらぶメゾン鶴ヶ島
(鶴ヶ島市富士見2-12-15)

